

注) ◆設計書等で指定がない場合は、再生砕石はRC-30を使用する

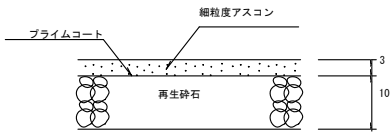
◆乗入部の舗装区分

- 【区分①-1】普通・小型貨物自動車（最大積載重量6.5t未満）等が乗り入れる場合
- 【区分②-1】普通貨物自動車（最大積載重量6.5t未満）等が乗り入れる場合
- 【区分②-2】大型貨物自動車（最大積載重量6.5t以上）等が乗り入れる場合

歩道舗装工 (アスファルト工・コンクリート工)

非透水

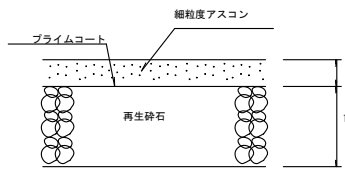
アスファルト工 一般部



※歩行者や自転車以外に、管理用車両や限定された一般車両の通行がある場合は、別途考慮する。

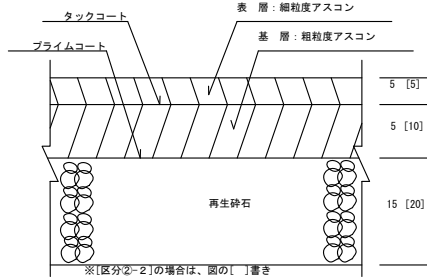
アスファルト工数量表 100m ² 当り	
細粒度アスコン	100m ³
プライムコート	100m ³
再生砕石	別途計上

アスファルト工 乗入部【区分①-1】



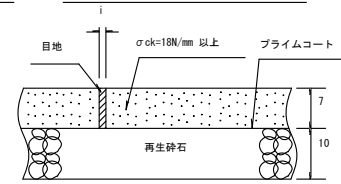
アスファルト工数量表 100m ² 当り	
細粒度アスコン	100m ³
プライムコート	100m ³
再生砕石	別途計上

アスファルト工 乗入部【区分②-1】・【区分②-2】



アスファルト工数量表 100m ² 当り	
細粒度アスコン	100m ³
粗粒度アスコン	100m ³
再生砕石	別途計上
タックコート	100m ³
プライムコート	100m ³

コンクリート工 一般部



コンクリート工数量表 100m ² 当り	
コンクリート	7.0~25.0m ³
再生砕石	別途計上
型枠、目地材	1式
養生材	1式
プライムコート	100m ³

【注1】5mに1箇所目地を設置することを標準とする。

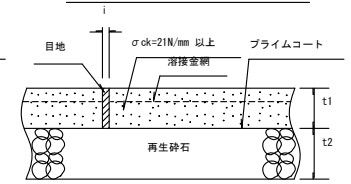
【注2】目地は舗装面に合わせる。

【注3】路床土は良質土を用いるものとする。

【注4】乗入部の舗装厚は出入りする車種の最大のものを適用する。

【注5】乗入部には、表面から版厚の約1/3(15cmの版厚の場合は版の中央)の位置に鉄網(異形鉄線溶接金網C06、網目15cm×15cm、JIS G 3551)を設置する。

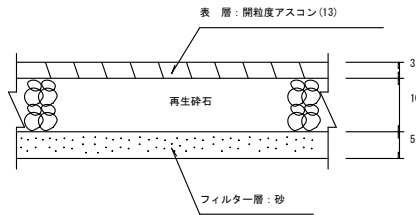
コンクリート工 乗入部



	コンクリート舗装	
	カーブ(t1)	踏盤(t2)
【区分①-1】	15	10
【区分②-1】	20	20
【区分②-2】	25	25

透水

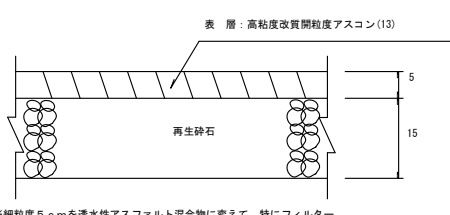
透水性アスファルト工 一般部



※歩行者や自転車以外に、管理用車両や限定された一般車両の通行がある場合は、別途考慮する。

透水性アスファルト工数量表 100m ² 当り	
開粒度アスコン	100m ³
再生砕石	別途計上
砂	5.0m ³

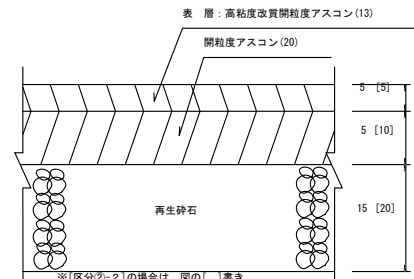
透水性アスファルト工 乗入部【区分①-1】



※細粒度5cmを透水性アスファルト混合物に変えて、特にフィルター層は設けない構造とする。
また、開粒度アスファルトは骨材飛散がみられるため、高粘度改質開粒度アスファルトを使用する。

透水性アスファルト工数量表 100m ² 当り	
高粘度改質開粒度アスコン	100m ³
再生砕石	別途計上

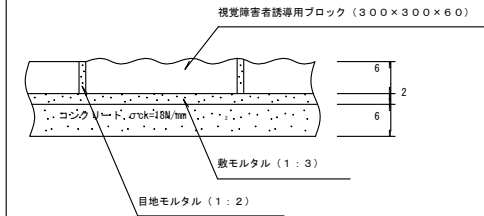
透水性アスファルト工 乗入部【区分②-1】・【区分②-2】



※【区分②-2】の場合は、図の[]書きの舗装構成とする(基層2層転圧)

透水性アスファルト工数量表 100m ² 当り	
高粘度改質開粒度アスコン	100m ³
開粒度アスコン	100m ³
再生砕石	別途計上

視覚障害者誘導用ブロック工 (300×300×60)



視覚障害者誘導用ブロック工数量表 100枚当り	
視覚障害者誘導用ブロック	100枚
敷モルタル	0.189m ³
目地モルタル	0.027m ³
コンクリート	0.567m ³
型枠	1.932m ²

※視覚障害者誘導用ブロックの輝度比を確保するため、コンクリートで固うことは行わない
※視覚障害者誘導用ブロックは原則、透水性のものは使用しない

図番

注) ◆設計書等で指定がない場合は、再生砕石はRC-30を使用する

◆乗入部の舗装区分

[区分①-1] 普通・小型貨物自動車が入る場合

[区分①-2] 普通・小型貨物自動車の交通量が多い(駐車場など)、又はインロクの破損が懸念される場合

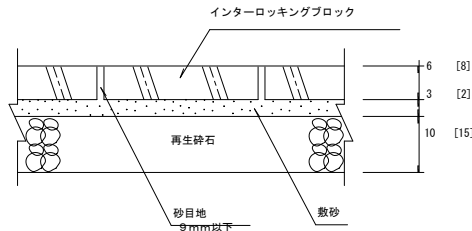
[区分②-1] 普通貨物自動車(最大積載重量6.5t未満)等が入る場合

[区分②-2] 大型貨物自動車(最大積載重量6.5t以上)等が入る場合

歩道舗装工 (インターロッキング舗装工)

非透水

一般部 乗入部 [区分①-1]



※[]書きは、乗入部[区分①-1]

一般部

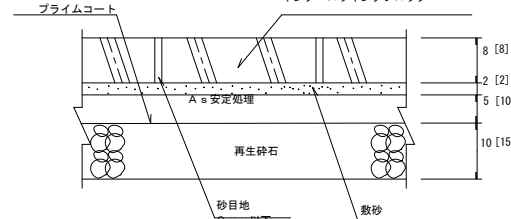
項目	数量
インターロッキングブロック	100 m ²
敷材料(砂)	3.870 m ³
再生砕石	別途計上

乗入部 [区分①-1]

項目	数量
インターロッキングブロック	100 m ²
敷材料(砂)	2.580 m ³
再生砕石	別途計上

乗入部

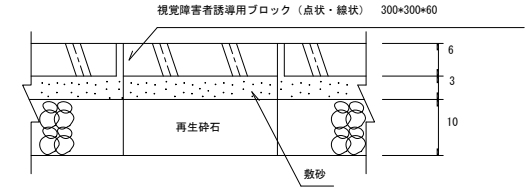
[区分①-2]・[区分②-1]・[区分②-2]
インターロッキングブロック



※[区分②-1]及び[区分②-2]の場合は、コンクリート舗装、又は、図の[]書きの舗装構成とする

項目	数量
インターロッキングブロック	100 m ²
敷材料(砂)	2.580 m ³
アスファルト安定処理材	100 m ²
再生砕石	別途計上
プライムコート	100 m ²

視覚障害者誘導用ブロック

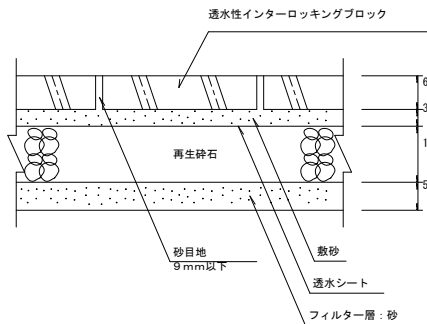


※乗入部の構造はインロクの場合(区分①-1、①-2、②-1、②-2)と同等とする。

項目	数量
視覚障害者誘導用ブロック	100 枚
敷材料(砂)	0.366 m ³
再生砕石	別途計上

透 水

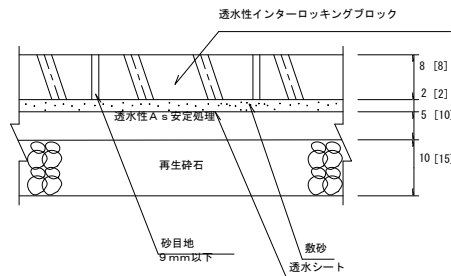
一 般 部



項目	数量
透水性インターロッキングブロック	100 m ²
敷材料(砂)	3.870 m ³
透水シート	100 m ²
再生砕石	別途計上
フィルター層(砂)	5.000 m ³

乗入部

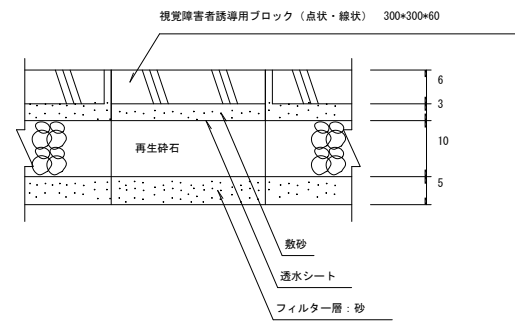
[区分①-1]・[区分①-2]・[区分②-1]・[区分②-2]



※[区分②-1]及び[区分②-2]の場合は、コンクリート舗装、又は、図の[]書きの舗装構成とする

項目	数量
透水性インターロッキングブロック	100 m ²
敷材料(砂)	2.580 m ³
透水シート	100 m ²
透水性アスファルト安定処理材	100 m ²
再生砕石	別途計上

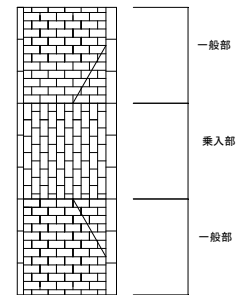
視覚障害者誘導用ブロック



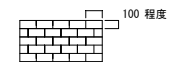
※乗入部の構造は、インロクの場合(区分①-1、①-2、②-1、②-2)と同等とする

項目	数量
視覚障害者誘導用ブロック	100 枚
敷材料(砂)	0.366 m ³
透水シート	9.449 m ²
再生砕石	別途計上
フィルター層(砂)	0.472 m ³

インターロッキングブロック敷設パターン



200 程度



※乗入部の敷設パターンは横断面

向に目地が通らないように注意すること

図番

注) ◆設計書等で指定がない場合は、再生砕石はRC-30を使用する

◆乗入部の舗装区分

[区分①-1]普通・小型貨物自動車等が乗り入れる場合

[区分①-2]普通・小型貨物自動車の交通量が多い(駐車場など)、又はインロクの破損が懸念される場合

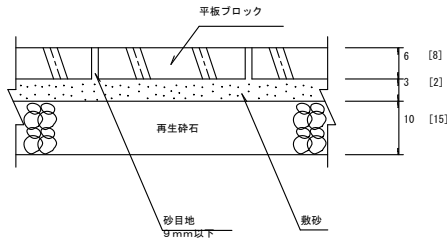
[区分②-1]普通貨物自動車(最大積載重量6.5t未満)等が乗り入れる場合

[区分②-2]大型貨物自動車(最大積載重量6.5t以上)等が乗り入れる場合

歩道舗装工 (平板ブロック舗装工)

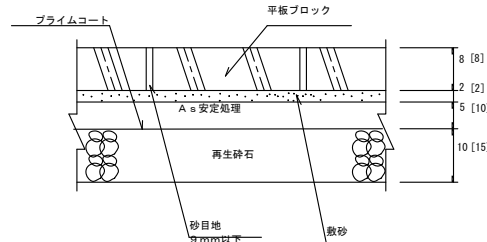
非透水

一般部 乗入部 [区分①-1]



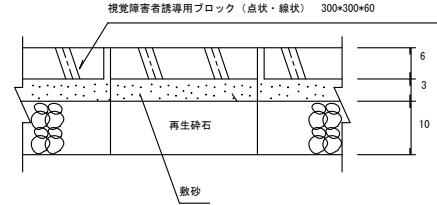
※[]書きは、乗入部[区分①-1]

乗入部 [区分①-2]・[区分②-1]・[区分②-2]



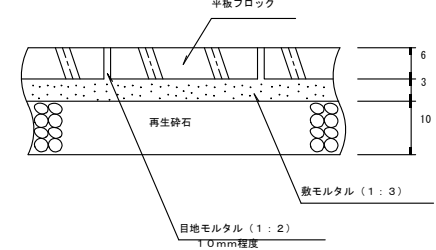
※[区分②-1]及び[区分②-2]の場合は、コンクリート舗装、又は、図の[]書きの舗装構成とする

視覚障害者誘導用ブロック



※乗入部の構造は、平板ブロックの場合(区分①-1、①-2、②-1、②-2)と同等とする

コンクリート平板舗装工



一般部

平板ブロック工数量表 100m ² 当り	
平板ブロック	1062 枚
敷材料(砂)	3.870 m ³
再生砕石	別途計上

乗入部 [区分①-1]

平板ブロック工数量表 100m ² 当り	
平板ブロック	1062 枚
敷材料(砂)	2.580 m ³
再生砕石	別途計上

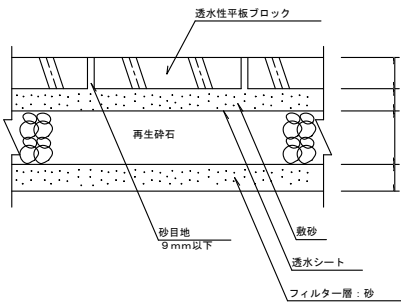
平板ブロック工数量表 100m ² 当り	
平板ブロック	1062 枚
敷材料(砂)	2.580 m ³
アスファルト安定処理材	100 m ³
再生砕石	別途計上
プライムコート	100 m ³

視覚障害者誘導用ブロック工数量表 100枚当り	
視覚障害者誘導用ブロック	100 枚
敷材料(砂)	0.366 m ³
再生砕石	別途計上

コンクリート平板舗装工数量表 100m ² 当り	
平板ブロック	1,062 枚
モルタル	3.42 m ³
再生砕石	別途計上

透水

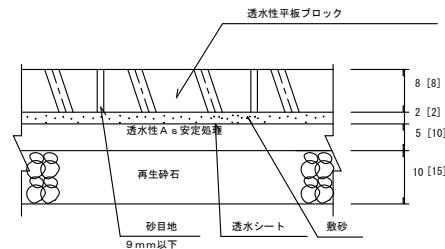
一般部



透水性平板ブロック工数量表 100m ² 当り	
透水性平板ブロック	1062 枚
敷材料(砂)	3.870 m ³
透水シート	100 m ²
再生砕石	別途計上
フィルター層(砂)	5.000 m ³

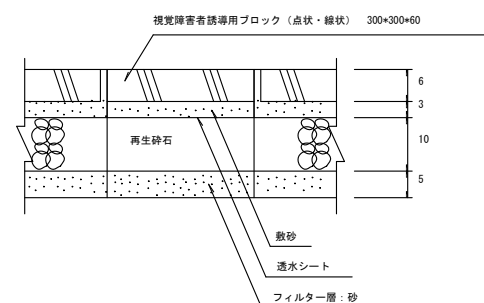
乗入部

[区分①-1]・[区分②-1]・[区分②-2]



※[区分②-1]及び[区分②-2]の場合は、コンクリート舗装、又は、図の[]書きの舗装構成とする

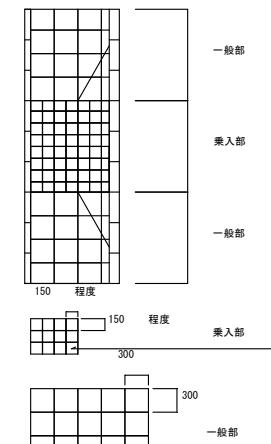
視覚障害者誘導用ブロック



※乗入部の構造は、平板ブロックの場合(区分①-1、①-2、②-1、②-2)と同等とする

視覚障害者誘導用ブロック工数量表 100枚当り	
視覚障害者誘導用ブロック	100 枚
敷材料(砂)	0.366 m ³
透水シート	9.449 m ²
再生砕石	別途計上
フィルター層(砂)	0.472 m ³

平板ブロック 敷設パターン

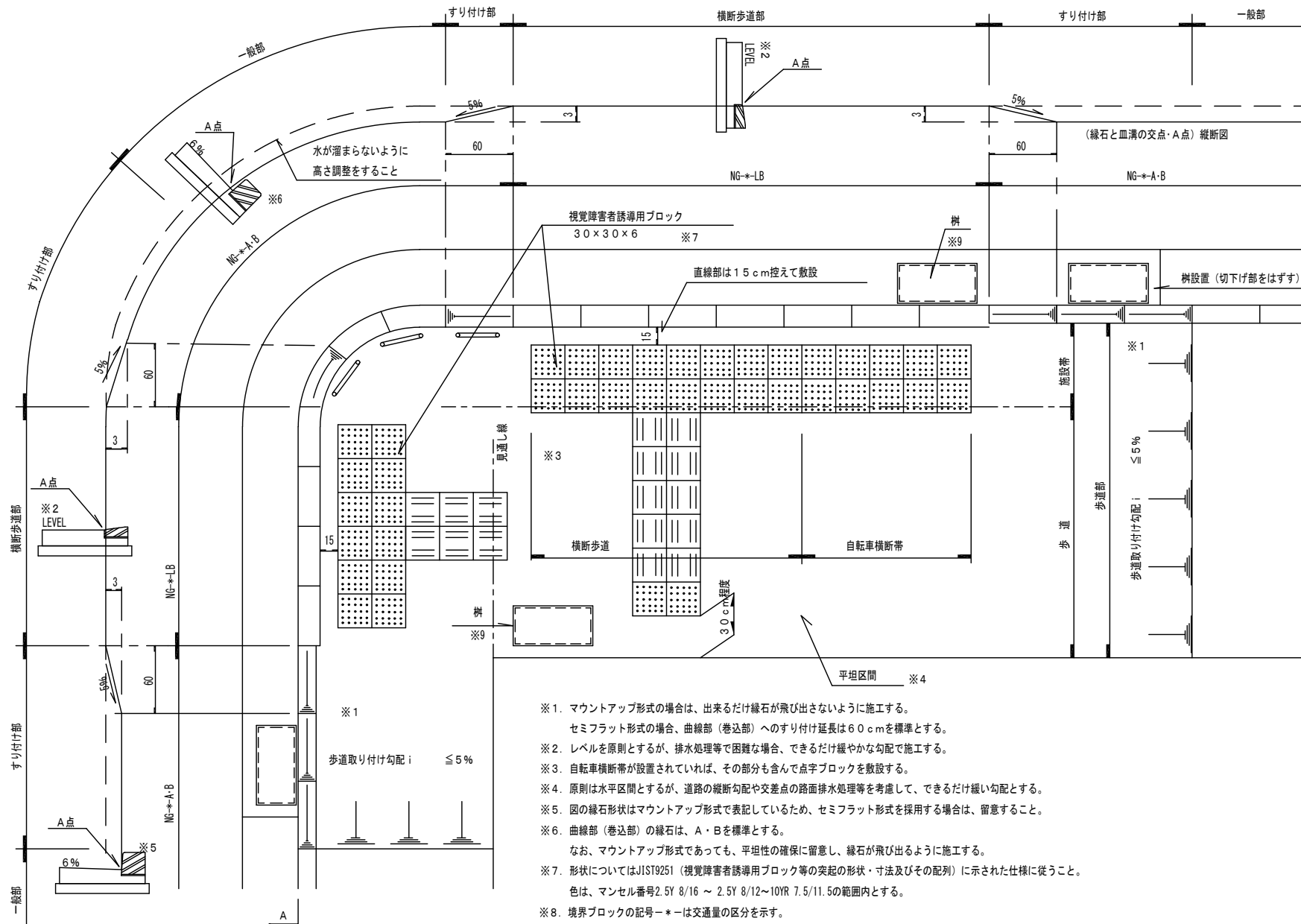


※乗入部に使用する平板ブロックは150×150程度の小ブロックを採用することが望ましい

図番

歩道切下げ部標準図(1)

S=1:40

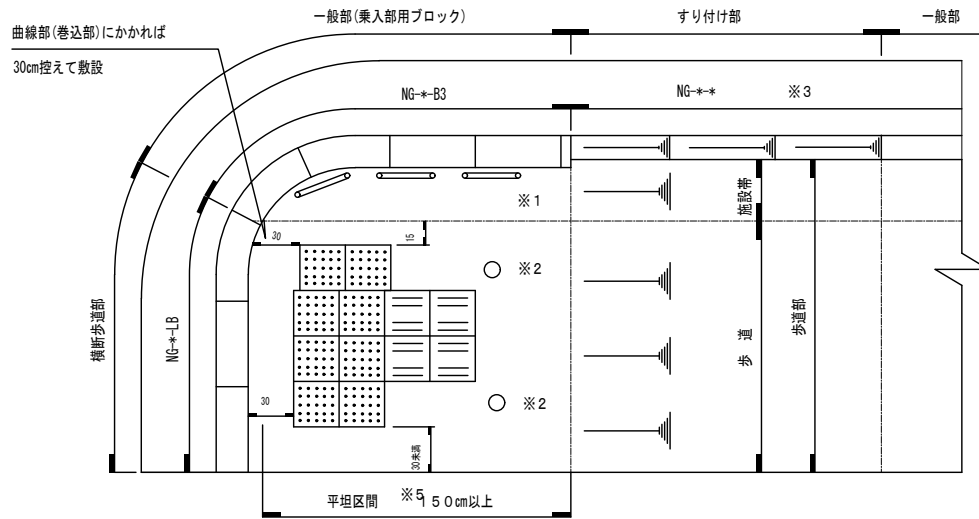


- ※1. マウントアップ形式の場合は、出るだけ縁石が飛び出さないように施工する。
セミフラット形式の場合、曲線部(巻込部)へのすり付け延長は60cmを標準とする。
- ※2. レベルを原則とするが、排水処理等で困難な場合、できるだけ緩やかな勾配で施工する。
- ※3. 自転車横断帯が設置されていれば、その部分も含んで点字ブロックを敷設する。
- ※4. 原則は水平区間とするが、道路の縦断勾配や交差点の路面排水処理等を考慮して、できるだけ緩い勾配とする。
- ※5. 図の縁石形状はマウントアップ形式で表記しているため、セミフラット形式を採用する場合は、留意すること。
- ※6. 曲線部(巻込部)の縁石は、A・Bを標準とする。
なお、マウントアップ形式であっても、平坦性の確保に留意し、縁石が飛び出るように施工する。
- ※7. 形状についてはJIS T 9251(視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列)に示された仕様に従うこと。
色は、マンセル番号2.5Y 8/16 ~ 2.5Y 8/12 ~ 10YR 7.5/11.5の範囲内とする。
- ※8. 境界ブロックの記号-*は交通量の区分を示す。
- ※9. やむを得ず歩道又は、横断歩道部に樹を設置する場合は、ダクトイル、グレーチングの細目、すべり止め仕様とすること。

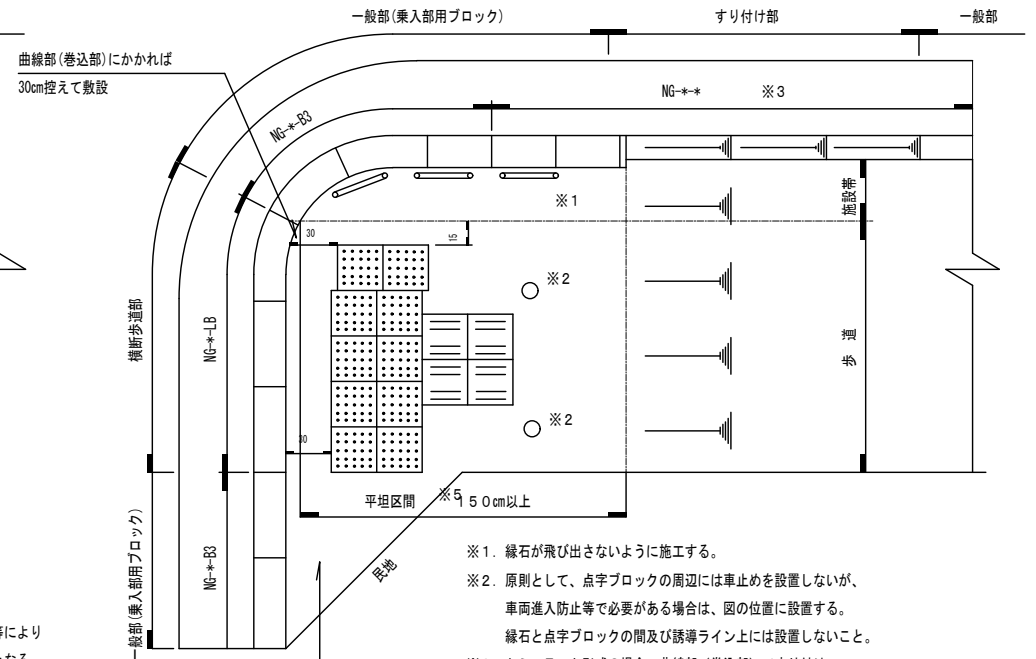
図番

歩道切下げ部標準図(2)

平面図 S=1:40



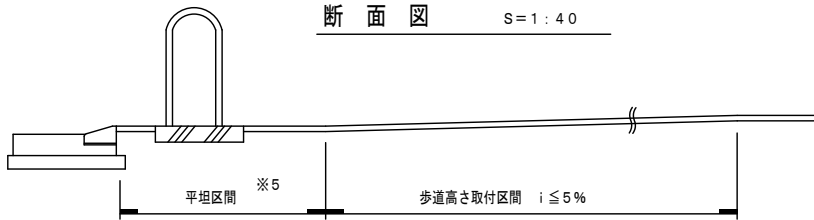
平面図 S=1:40



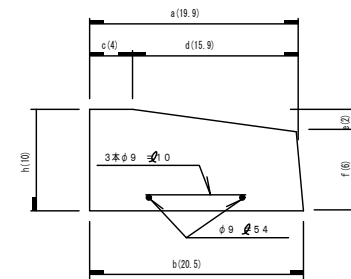
民地の構造物等により
車両より死角となる
場合は必要に応じて柵
等の設置を検討する。

- ※1. 縁石が飛び出さないように施工する。
- ※2. 原則として、点字ブロックの周辺には車止めを設置しないが、車両進入防止等が必要がある場合は、図の位置に設置する。
縁石と点字ブロックの間及び誘導ライン上には設置しないこと。
- ※3. セミフラット形式の場合、曲線部(巻込部)ですり付け、その延長は60cmを標準とする。
- ※4. 境界ブロックの記号*-は交通量の区分を示す。
- ※5. 平坦区間とはできる限り平ら(縦断勾配を付さない構造)で、かつ、車いす使用者が転回する際に支障となる柵や標識などが存在しない区間をいう。

断面図 S=1:40



縁石ブロック S=1:6



許容差 (mm)	a, c, e	b, h, f
	±2	±3

色調—マンセル番号 10GY 8/4~10GY 6 .5/6の範囲内とする。

品質—平板の強度はJIS A 5307 (コンクリート境界ブロック) の

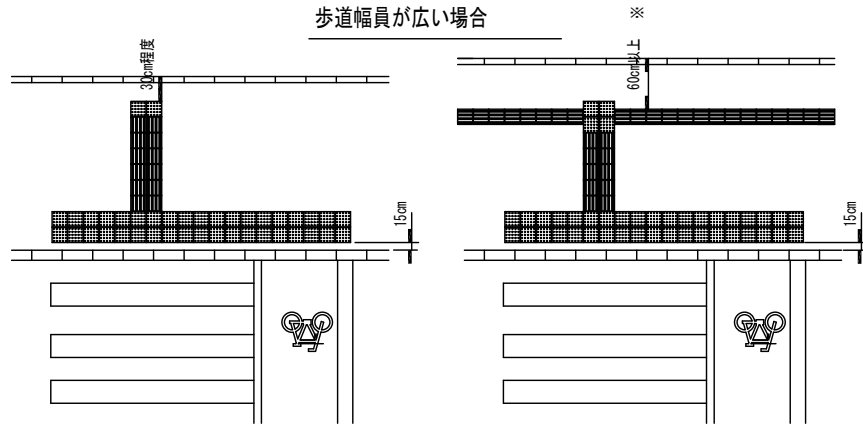
6. 1に規定する曲げ試験を行った場合は、破壊荷重は900kg以上とする。

図番

視覚障害者誘導用ブロック設置工（１）

横断部の敷設

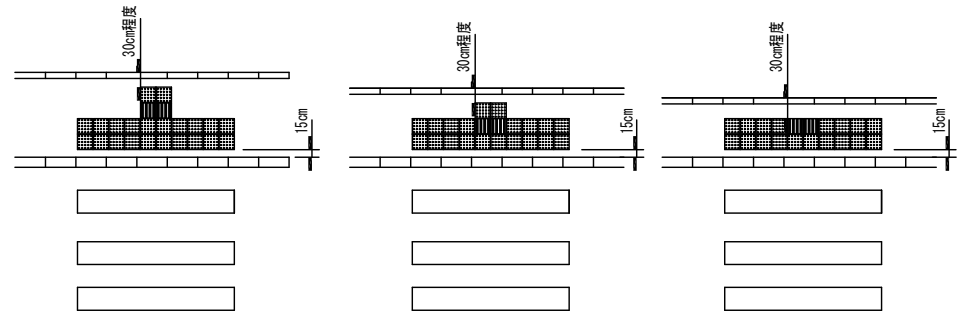
歩道幅員が広い場合



継続的直線歩行を案内していない場合

継続的直線歩行を案内している場合
※1.0~2.0m程度確保することが望ましい。

歩道幅員が狭い場合

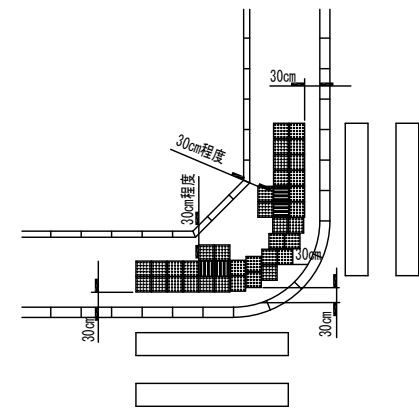
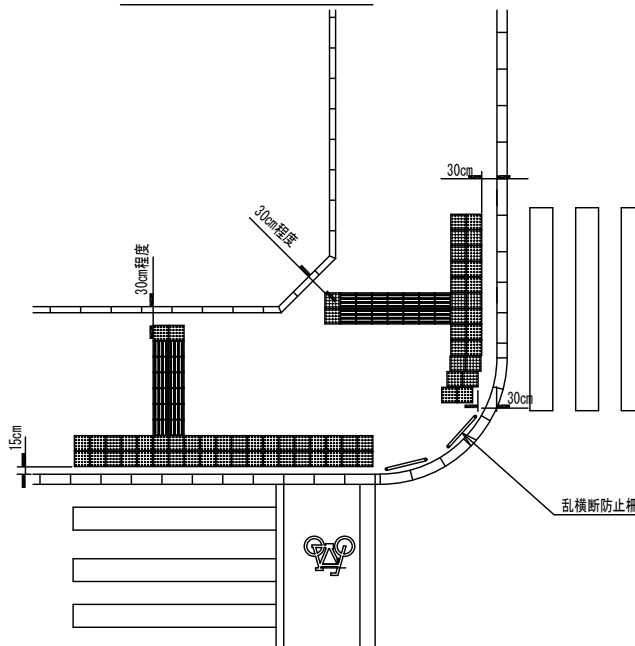
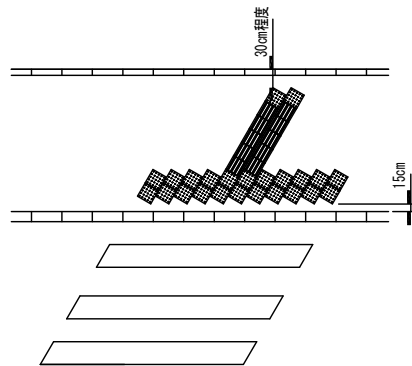


歩道巻き込み部の敷設

歩道幅員が広い場合

歩道幅員が狭い場合

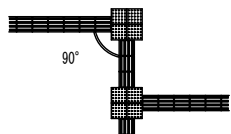
横断歩道歩道が斜めの場合の敷設



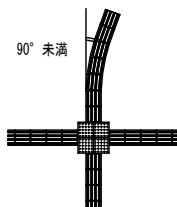
視覚障害者誘導用ブロック設置工（２）

方向が変わる誘導ラインの敷設

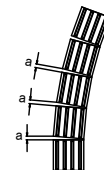
(イ) 90°



(ロ) 90° 未満



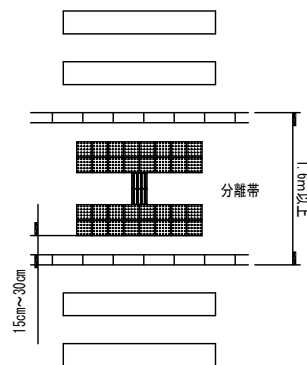
点状ブロックは敷設しない



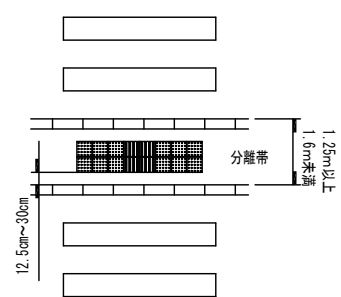
a : 10cm以下

分離帯部の敷設

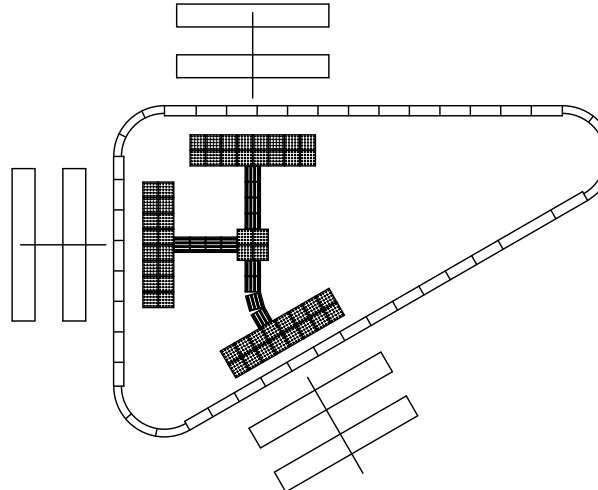
分離帯幅員 W ≤ 1.60m



分離帯幅員 1.25m ≤ W < 1.60m

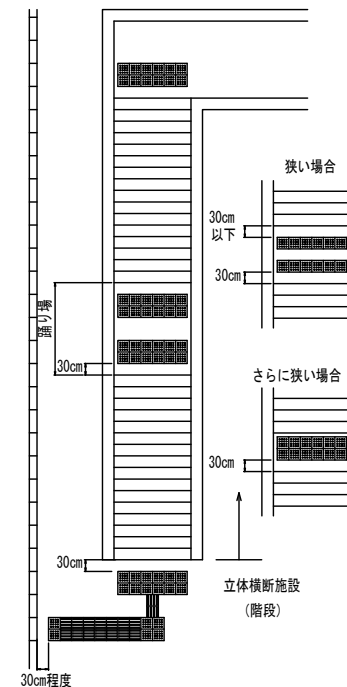


広い分離帯の場合

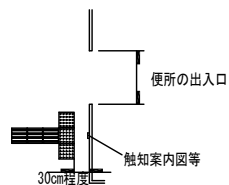


※点状ブロックはできる限り2列ずつ敷設すること。

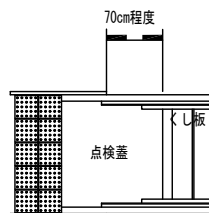
立体横断施設部等の敷設



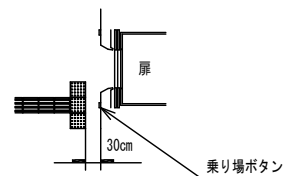
便所の敷設方法



エスカレータの敷設方法



エレベーター乗りの敷設



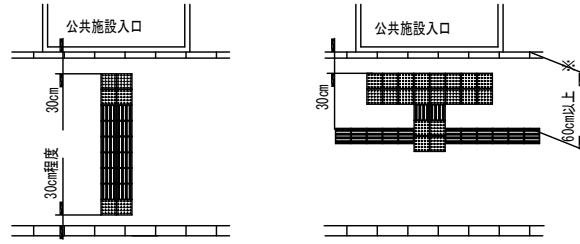
図番



視覚障害者誘導用ブロック設置工（3）

公共施設出入口部の敷設

道路との境界に扉等の構造物がある場合



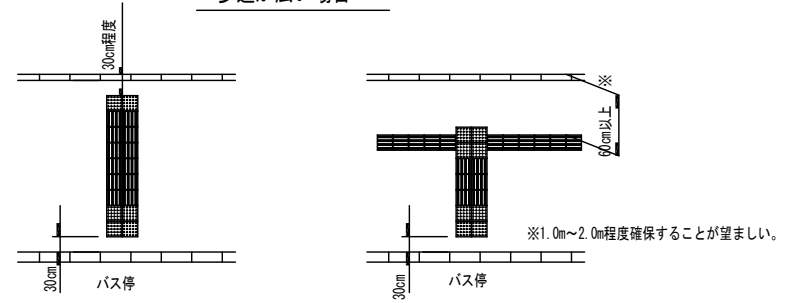
継続的直線歩行を案内していない場合

継続的直線歩行を案内している場合

※公共施設出入口部が階段である場合などは、現地の状況に応じて、適宜点状ブロックの設置幅を工夫すること。

バス停車場部の敷設

歩道が広い場合



継続的直線歩行を案内していない場合

継続的直線歩行を案内している場合

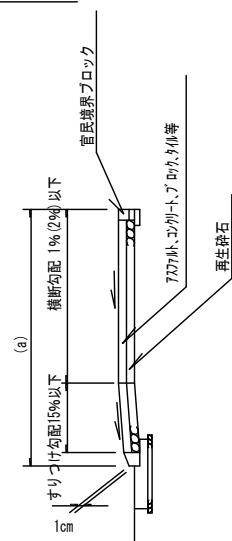
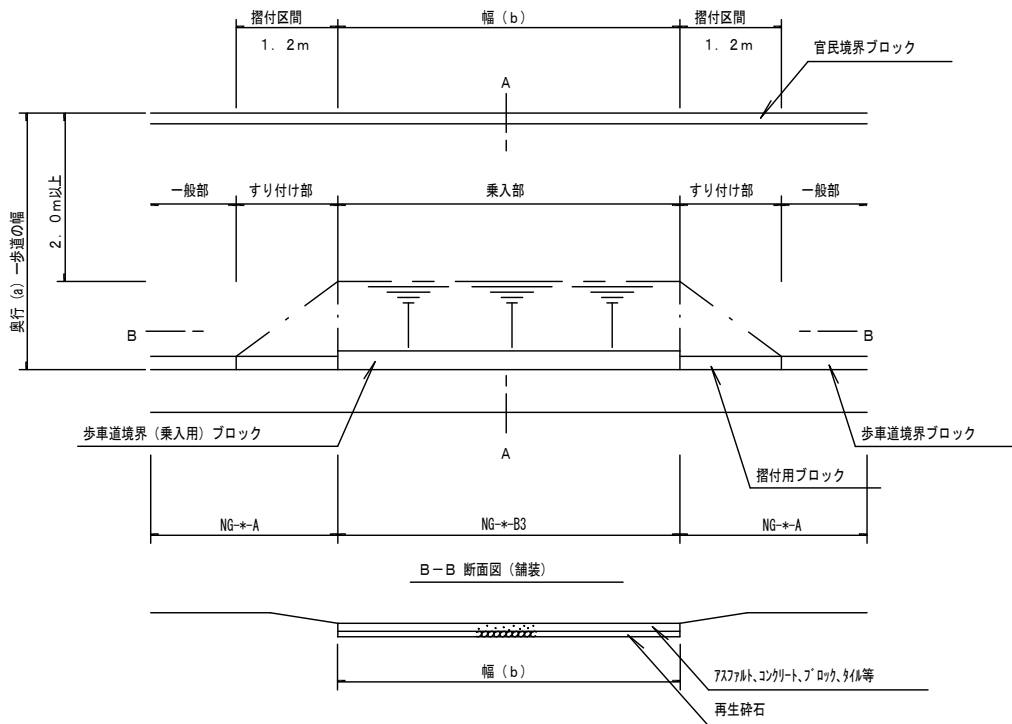
歩道乗入部 平面図 ①

(マウントアップ形式で残幅員が有効で2.0m以上ある場合)

[A型ブロック]

※ガソリンスタンド、路外駐車場、店舗、工事等(営業用)に出入りし、乗入れ回数が頻繁な場合、コンクリート舗装のうえ緑石ブロックをいれること。

※上記以外においても、必要に応じて緑石ブロックを入れることができる。



※なお、緑石のすり付け延長は60cmを標準とする。
※境界ブロックの記号-*は交通量の区分を示す。

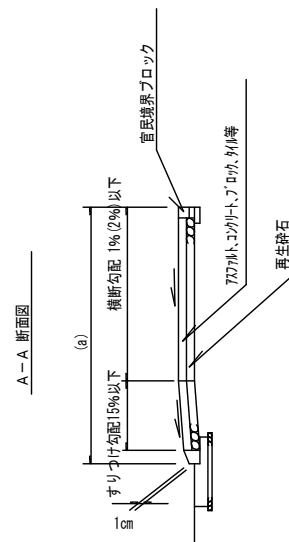
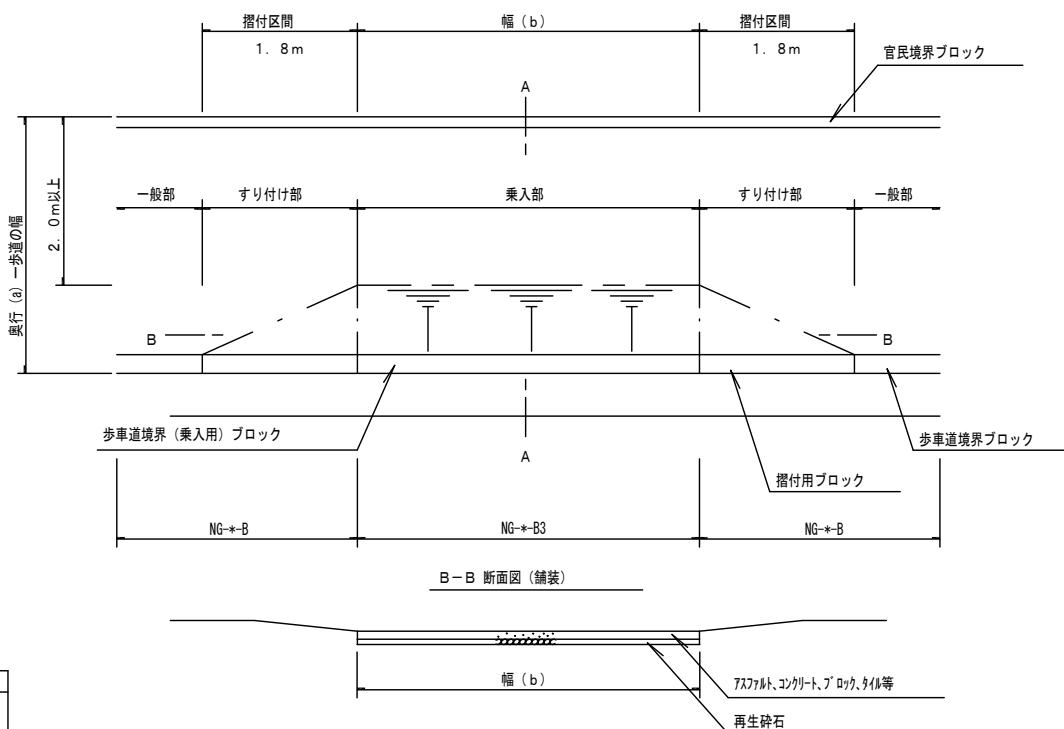
歩道乗入部 平面図 ②

(マウントアップ形式で残幅員が有効で2.0m以上ある場合)

[B型ブロック]

※ガソリンスタンド、路外駐車場、店舗、工事等(営業用)に出入りし、乗入れ回数が頻繁な場合、コンクリート舗装のうえ緑石ブロックをいれること。

※上記以外においても、必要に応じて緑石ブロックを入れることができる。

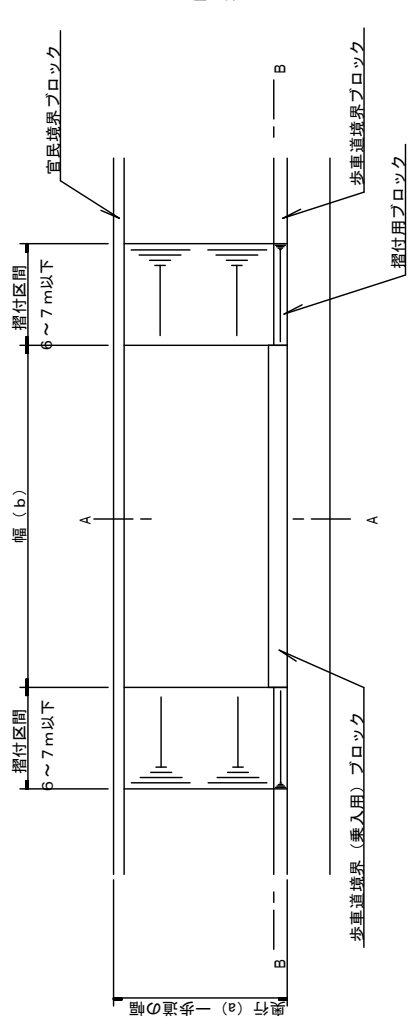


※なお、緑石のすり付け延長は60cmを標準とする。
※境界ブロックの記号-*は交通量の区分を示す。

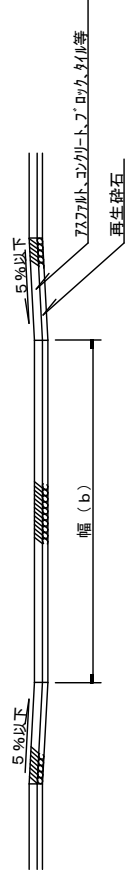
歩道乗入部 平面図 ③

(マウントアップ形式で、残幅員が有効で2.0m以上とれない場合)

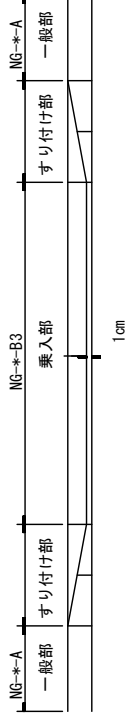
〔A型ブロック〕



B-B 断面図 (舗装)



B-B 断面図 (歩車道境界A型ブロック)

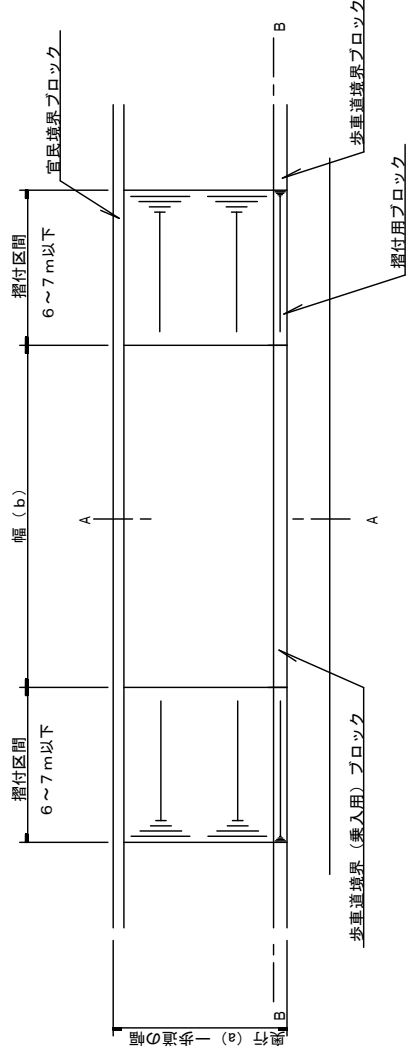


※すりつけ部の縁石は出来るだけ飛び出ないように施工すること。
ただし、すりつけ延長が長くなる場合はこの限りでない。

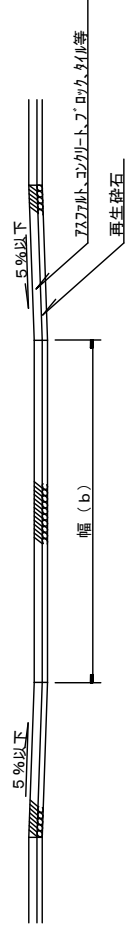
歩道乗入部 平面図 ④

(マウントアップ形式で残幅員が有効で2.0m以上とれない場合)

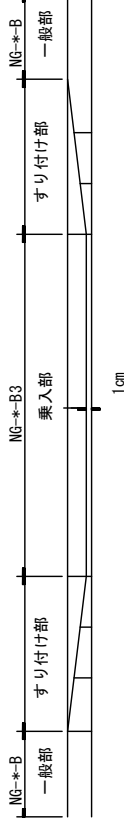
〔B型ブロック〕



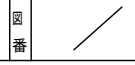
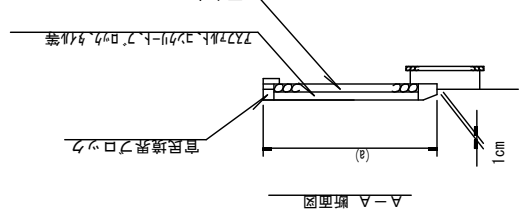
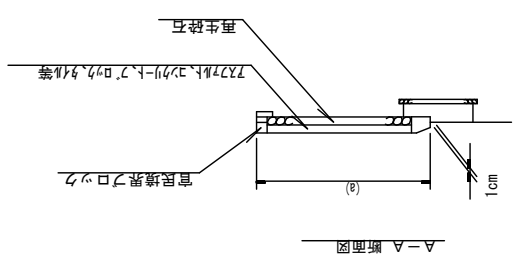
B-B 断面図 (舗装)



B-B 断面図 (歩車道境界B型ブロック)



※すりつけ部の縁石は出来るだけ飛び出ないように施工すること。
ただし、すりつけ延長が長くなる場合はこの限りでない。



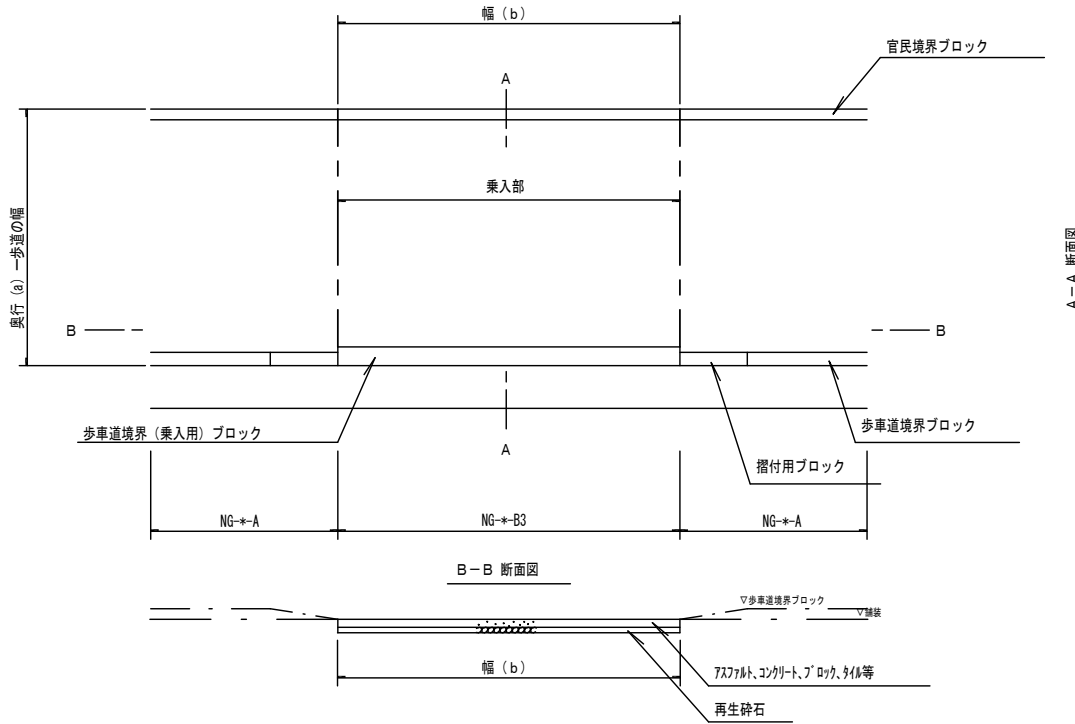
歩道乗入部 平面図 ⑤

(セミフラット形式)

[A型ブロック]

※ガソリンスタンド、路外駐車場、店舗、工事等（営業用）に出入りし、乗入れ回数が頻繁な場合、コンクリート舗装のうえ緑石ブロックをいれること。

※上記以外においても、必要に応じて緑石ブロックを入れることができる。



※なお、緑石のすり付け延長は60cmを標準とする。

※境界ブロックの記号-*は交通量の区分を示す。

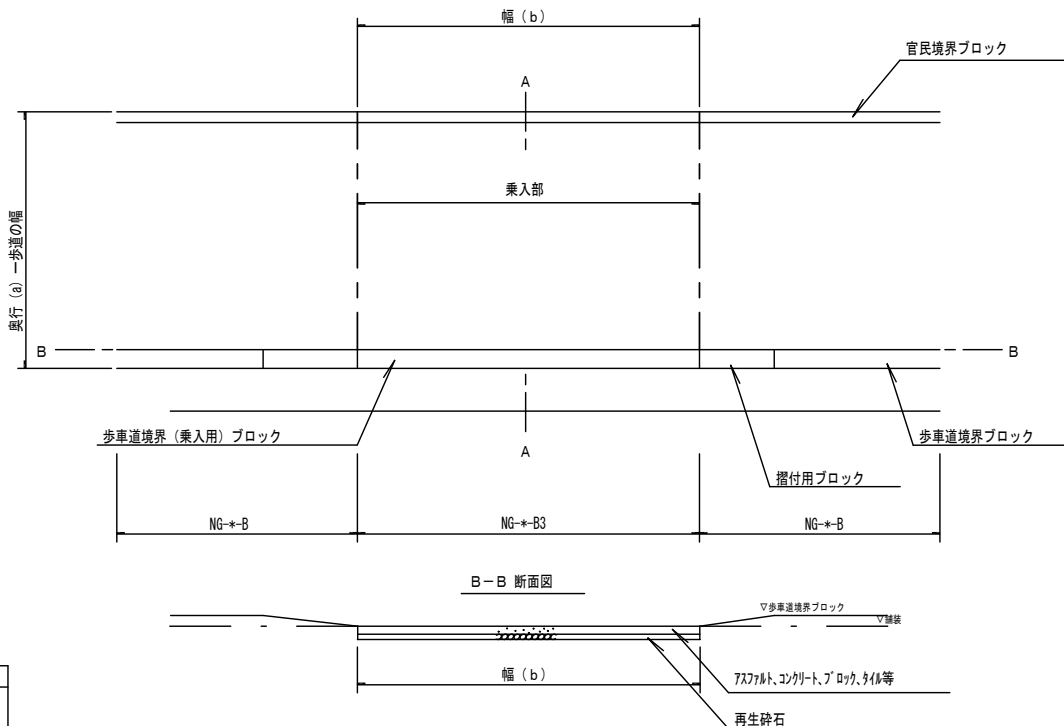
歩道乗入部 平面図 ⑥

(セミフラット形式)

[B型ブロック]

※ガソリンスタンド、路外駐車場、店舗、工事等（営業用）に出入りし、乗入れ回数が頻繁な場合、コンクリート舗装のうえ緑石ブロックをいれること。

※上記以外においても、必要に応じて緑石ブロックを入れることができる。



※なお、緑石のすり付け延長は60cmを標準とする。

※境界ブロックの記号-*は交通量の区分を示す。